

34-15 国際医療協力部 派遣業務のまとめ

国立病院医療センター 国際医療協力部 医師○喜多 悦子 我妻 堯

〔概説〕 1年から数年にわたる比較的長期間、途上国に赴任し、主として医療知識や技術を伝達する、いわゆる『技術協力』にたずさわる医師をプールする目的で、医療センターに国際医療協力部が設置されて5年6ヶ月が経過した。当初、部長以下5名であった部員も、目下、28名となり、常時、数名以上が長期赴任、他の数名は、1～3週から、3～5ヶ月の短・中期間の派遣状態にある。この機会に、派遣部員の業務の実態につきまとめた。

〔構成〕 部の構成は、医師のみからなる、いわゆる医局ではなく、部長（1）以下、設置順に派遣協力課、研修課、情報企画課の3課に、それぞれ課長（2技官、1事務官）、係長（事務官）がおかれ、部員医師21名は、すべて派遣協力課に属する。全医系スタッフの専門分野は、内科系 9、小児科 6、外科 4、産婦人科 2、その他臨床病理、放射線科、公衆衛生 各1である。年齢は33才から62才、平均は43.6才である。部開設以来の5年6ヶ月間の全公務海外派遣回数は206回、延べ日数は11,485日、年平均派遣要員は16名、したがって、平均 2.3回／人／年の派遣、また、1回当りの平均日数は55.8日となる。しかし、1年以上の長期派遣は13回であり、実際には、技術協力、無償資金援助計画案設立のための調査や評価などのための短期派遣が圧倒的に多く、当初、想定された業務とはかなり異なるものであったが、その内容についても分析報告する。